

# 2017年3月期連結決算業績 並びに2018年3月期見通し

**(株)バイテックホールディングス**

**2017年5月**

単位:百万円

	2016/3月末	2017/3月末	
		実績	前期比
売上高	145,415	<b>138,841</b>	95.5%
売上総利益	9,916	<b>10,137</b>	102.2%
売上総利益率	6.8%	<b>7.3%</b>	—
販管費	7,455	<b>7,357</b>	98.7%
営業利益	2,461	<b>2,780</b>	113.0%
経常利益	1,867	<b>2,067</b>	110.7%
当期純利益	1,243	<b>1,512</b>	121.6%

## ●デバイス事業

- ①WPGグループ(台)との合併会社VWPGが平成28年1月から連結対象になり売上に貢献
- ②スマートフォン向け指紋センサ及びイメージセンサ、デジタルカメラ向けイメージセンサ等の販売減少
- ③東京エレクトロデバイスとの合併会社ビステル社を設立、Framos社(独)・WPGグループとの合併会社Vimos社を設立

## ●環境エネルギー事業

- ①累計36か所のメガソーラーの発電収入、新電力V-Powerは小売ビジネスの伸長がそれぞれ売上・利益に貢献
- ②大館市の完全密閉型植物工場産フリルレタスが大手コンビニ向け等へ出荷開始
- ③石川県七尾市、鹿児島薩摩川内市でも順次植物工場の建設開始、七尾ラボ(七尾市)の設立

## ●調達事業

- ①パナソニックと資本業務提携、部材調達、業務受託ビジネスが売上伸長に大きく貢献

## <売上総利益、営業利益等>

- ①売上高総利益率は6.8%から7.3%へ改善、営業利益率も1.7%から2.0%へ改善
- ②営業利益は過去最高、以下当期利益まで増益を確保。前期比で10%超の伸長率

# Vitec 2017年3月期セグメント別売上高・営業利益

単位:百万円

		2016/3月末	2017/3月末	前期比
デバイス 事業	売上高	136,719	109,012	79.7%
	セグメント利益	1,568	984	62.8%
	(利益率)	(1.1%)	(0.9%)	-
環境・エネルギー 事業	売上高	8,696	12,832	147.6%
	セグメント利益	892	1,629	182.6%
	(利益率)	(10.3%)	(12.7%)	-
調達事業	売上高	-	17,395	-
	セグメント利益	-	165	-
	(利益率)	-	(0.9%)	-
連結売上高		145,415	138,841	95.5%
セグメント利益		2,461	2,780	113.0%

## <デバイス事業>

・売上高は減収となるも、粗利率は改善、構造改革等により販売管理費も低減

## <環境・エネルギー事業>

・環境事業は売上高が前期比48%の大幅伸長、売電事業、新電力の売上拡大が牽引

・営業利益率も12.7%へ伸展。全社営業利益への貢献が顕著(構成比で約59%)

## <調達事業>

・調達事業は今期から新セグメントとして開示、前年同期実績は売上高9,390百万円で前期比約85%増の大幅伸長

# 2017年3月期 貸借対照表

単位:百万円

科目	前期末 2016年3月31日	当期末 2017年3月31日
<b>資産の部</b>		
流動資産	42,173	45,435
固定資産	18,698	18,503
有形固定資産	15,668	14,843
無形固定資産	807	837
投資その他の資産	2,222	2,821
資産合計	60,871	63,939
<b>負債の部</b>		
流動負債	33,684	35,841
固定負債	13,821	12,965
負債合計	47,505	48,807
<b>純資産の部</b>		
株主資本	13,209	14,242
その他の包括利益累計額	35	482
少数株主持分	120	407
純資産合計	13,365	15,131
負債純資産合計	60,871	63,939

資産合計:63,939(前期末比+3,068)。主にたな卸資産の増加等による。なお有形固定資産の中でリース資産は11,303(順額、前期比-530)

負債合計:48,807(前期末比+1,301)。主に買掛金等の増加による。短期・長期借入金は減少。法人税その他が若干増加。なお固定負債の中でリース債務は11,048(前期比-477)

純資産合計:15,131前期末(前期末比+1,766)。主に利益剰余金等の増加による

自己資本比率:前期23.0%(前期末21.8%から1.2%増加)

単位:百万円

	2017/3期 (実績)	2018/3期 (通期予想)	前期比
売上高	138,841	170,000	122.4%
営業利益	2,780	3,000	107.9%
経常利益	2,067	2,200	106.4%
当期純利益	1,512	1,600	105.8%

- 主に調達事業の拡大等によって売上高は前期比22%増の1,700億円を見込む
- デバイス事業、調達事業で営業増益を達成する見通し
- 全体でも経常利益、当期利益ともに増益を維持

## <配当方針>(2016年11月7日発表) 変更なし

当社は、株主の皆様へ積極的な利益還元を行うため、下記のような考え方を利益配分の基本指針としております。

- ①配当総額については、連結半期純利益の30%以上を目安とする共に、今後も継続的に増やすことを目指し、中期的に安定的かつ継続的な配当を維持してゆきます
- ②将来の成長に向けての戦略投資を積極的に実施することで、更なる利益の拡大・継続的な資本効率等の改善と向上に努めて参ります。

## <今31期(17年度)の年間配当予想>

55円の配当を維持 (中間25円、期末30円)

\*前年度配当金 55円(中間25円、期末30円(内30周年記念配当5円))

## 『世界・社会貢献・共創』

<b>方針</b>		エレクトロニクス 価値共創企業 新たな成長ステージへ 成長と利益の創出、高付加価値への転換	
<b>第33期</b> 2019年度	<b>売上高</b>	<b>2,700億円</b>	
	<b>営業利益</b>	<b>56億円</b>	<b>2.0%</b>
	<b>経常利益</b>	<b>46億円</b>	<b>1.7%</b>
	<b>当期純利益</b>	<b>32億円</b>	<b>1.2%</b>
	<b>一株当たり 当期純利益</b>	<b>220円以上</b>	

## 従来の枠組みを超えた様々な展開

<b>デバイス</b>	<b>世界市場での規模の追求と 構造改革</b>
<b>電子機器</b>	<b>新しい事業領域と収益性の確保</b>
<b>調達</b>	<b>業界の調達事業集約化と グローバル展開</b>
<b>環境エネルギー 新電力</b>	<b>次世代エネルギー社会への貢献</b>
<b>植物工場</b>	<b>業界メジャーの実現と サプライチェーン改革</b>
<b>全社共通</b>	<b>ソフトウェア、システムビジネスの 融合促進</b>



# 主要経営指標

	中期目標	備考
自己資本比率	25%以上	財務体質の改善
DELシオ	1.0未満	
ROA	3.5%以上	資本効率の向上
ROE	15%以上	
純資産	200億円以上	資産規模の拡大
配当性向	30%以上	安定かつ継続的な配当
EPS 一株当たり純利益	220円以上	企業価値向上

＜その他補足＞

\* 為替予約管理方法の変更によるヘッジコストの削減

\* 在庫圧縮、キャッシュフローの活用等、事業資金創出と財務基盤のより一層の強化

\* DELシオの算出方法: 有利子負債(リース債務除く) ÷ 自己資本

# < 共創の進展 >

グローバル戦略

VIMOS(欧州)

WPG Holdings (アジア)

菱熱工業(植物工場事業)

## グローバル拠点網の実現とローカルビジネスの拡大

【欧州】グローバル展開  
・ドイツ合併会社設立

【中国・アジア】ローカル拡大  
・韓国現地法人化

【北米・イスラエル】  
グローバル展開  
・次世代ベンチャー投資

Germany

Korea

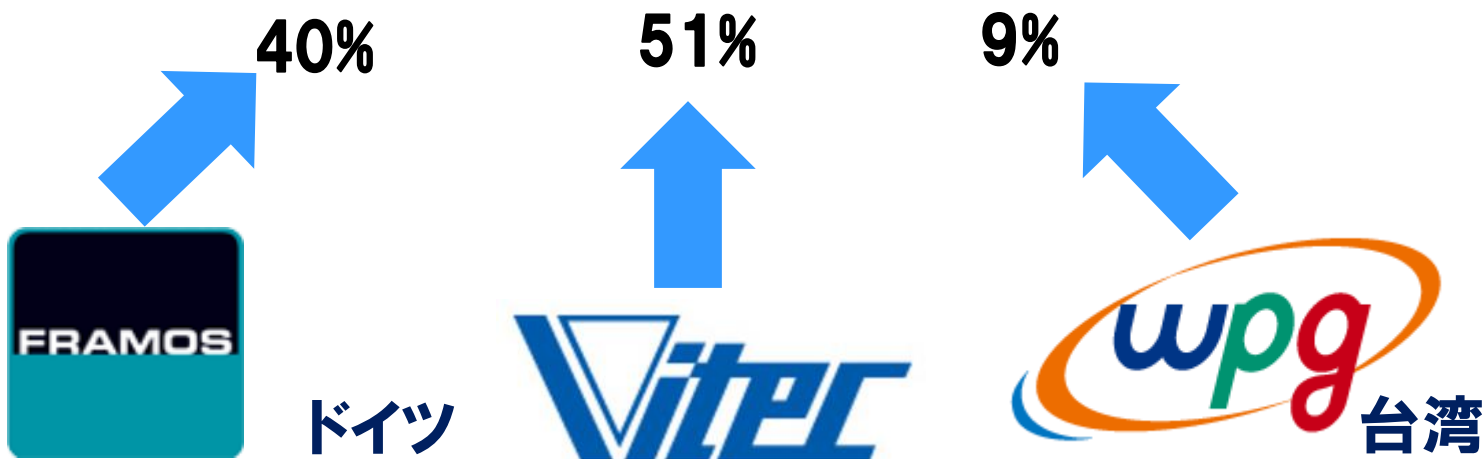
・WPGとの連携強化  
(VitecWPG)



## FRAMOS社、WPGグループとの連携

欧州での半導体・電子部品・  
システム・ソリューション事業のビジネス拡大

**VIMOS**  
TECHNOLOGIES



## WPG Holdingsとの資本提携



**両社が保有する商材を、お互いの得意な地域で販売  
海外拠点戦略の再構築  
ローカル顧客への販売拡大 等**

## 戦略的パートナーシップ

新製品開発

設備・施工



生産性・品質  
の向上(ラボ)

最適な  
空調管理



効率的な工場運営



年・月		トピックス
2015年度	6月	監査等委員会設置会社へ移行
	8月	増配発表
	10月	持株会社体制への移行
		V-Lowマルチメディア放送事業へ参画、アマネク社との資本提携
	11月	Telit代理店契約
		指紋認証モジュールの販売開始
		特別高圧7MW稼働(兵庫県三田市)
	12月	特別高圧21MW稼働(岩手県滝沢市)
野菜販売専門会社設立		
1月	TWPGの連結子会社化	
3月	NTTドコモ等4社共同開発製品発表会	
	韓国事務所 法人化	
2016年度	4月	PTT パナソニックの資本参加
		植物工場の竣工(秋田県大館市)
	5月	テクノアルファとの業務提携
	10月	VISTEL (TEDとの技術合併会社) 事業開始 ViMOS (独FRAMOS社、台湾WPGグループとの合併会社) 設立合意
	2月	記念配当のお知らせ
3月	菱熱工業との資本提携(第三者割当)	
2017年度	5月	台湾WPG Holdingsとの資本提携(第三者割当)

## **◇ 将来の見通しに関する注意事項**

**このプレゼンテーションに掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。**

**実際の業績は、様々な外部要因、内部要因の変化により、これらの業績見通しとは異なる結果となる可能性があります。**

**実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、世界・日本経済の動向、急激な為替相場の変動ならびに戦争・テロ活動、災害や伝染病の蔓延等があります。**